

特集

高知医療センター 新年のご挨拶…… P2~P4

にしじ

- 新任医師のご紹介 P5
- 第28回高知医療センター職員による学会出張報告
 (婦人科 竹内 悟 医師) P6
- 地域医療連携病院のご紹介 (医療法人若槻会 若槻産婦人科クリニック) P7
- 高知医療センターニュース Vol.8 P7
- 高知医療センターイベント情報 P8



JANUARY.2010 Vol.51

謹賀新年



写真：朝日

高知医療センターの基本理念
 医療の主人公は患者さん
 高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化



企業長 山崎隆章



明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年は、私にとりまして小忙しい日々があっという間に過ぎ去り、一年をこれ程短く感じたのはこれまでに無かったのではないかと考えています。

懸案であったPFI事業も終了への合意ができ、一区切りはできましたが、来年度4月からの運営がスムーズに移行できるよう、しばらくは全力での取り組みが

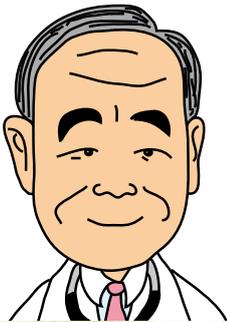
必要だと肝に銘じているところです。

運営形態が変わることを契機に、これからの高知医療センターの組織体制や医療機能の見直しを行い、中期的（5年）な病院運営の事業計画を策定していくこととしていますので、この計画を目標に職員一同、努力していかなければならないと思っています。

今後とも、地域医療支援病院として地域の医療機関をはじめとする関係機関と連携し、ご協力をいただきながら県民・市民の皆様の期待に十分応えられるよう頑張っていきたいと思っております。

皆様におかれましても、今年が良い年となりますことを心から願っています。本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

病院長 堀見忠司



昨年1年は瞬く間に過ぎ去り、受難の年は過去となり、新たな幸せが舞い降りて来る気配が感じられます。

昨年、私は1年間、繰り返し、繰り返し「変化は進化」を唱え、『ダーウィンの進化論』を引用して、「全ての生物界において、生き延びるのは決して強いものではなく、変化するもののみが生き延びる。」と話させていただきました。

この変化は、まさに、我々高知医療センターにぴたり当てはまってしかるべき言葉です。

昨年の最も大きな変化は、PFI事業の終了でしょう。昨年の今頃、私どもは沢山の試練と命題に見舞われ、茨の道に足を踏み入れたこととお話しました。しかし、これらの試練の全ては次の飛躍への布石になり、本当

に繁栄への捨て石となりそうです。

さらに、その他の変化と言えるものは、高知医療センターの経営改善をはじめ、高得点の病院評価機構受審、DPCの開始、外来看護コンサルジユの発足、救命救急センターの充実など次々に取り組みされた企画は新たな変化を生み、それら全ての結果が県民・市民にとって胸を張れるものになりました。

他の医療機関では余り行われていないスペシャルな医療や新規の医療機器の整備など、以前にも増して県民・市民が頼れる病院となり、目標に向かった医療機関として、「四国の医療の要」を目指し、皆様方にお役に立つことができるようになりつつあります。

今年は地域医療連携と広報の充実を最大の課題として、新たな変化を求め、そして、情熱をもって真摯に取り組み、皆様方と一緒に「夢と希望」の高知医療センターの成長と歴史を築いていきたいと念じております。

副院長 深田順一



皆様、明けましておめでとうございます。平成22年の年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年末にはご愛読いただきありがとうございますこの「にじ」も50号という節目を何とか迎えることができました。創刊号は平成17年の10月にお届けいたしました。当初は毎月、8ページの

記事、という目論みは1病院の情報誌としては無謀だ、という声もありましたが、最近は積み残しの記事も出るような状況になってきました。

また、専門の糖尿病診療については、昨年春から始めました先生方のお近くでの研究会も、お蔭をもちまして昨年は計23回の開催で、延べ218名の先生方にご参集いただきました。いつも御仕事の後の時間帯で、お疲れの中にもかかわらず熱心にご参加いただいております。「にじ」そして「診療連携を目指した出前研究会」とも、先生方のご支持があってこそのもので、本年も「継続は力なり」を念頭に頑張っていこうと思っております。変わらぬご支援をこの場を借りてお願い申し上げます。

この一年も昨年同様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

副院長・栄養局長 谷木利勝



新年あけましておめでとうございます。

開院して5年が経過しようとしている高知医療センターも、試行錯誤を繰り返しながら、院内外の方々からのご協力を得て、高知県の中核病院としての役割を何とか果たしているのではと思っております。

昨年、ベッドコントロール対策部会では、入院ベッドが満床状態になる日が多くあり、委員などの活躍によって難局を切り抜けました。

医療関連感染対策委員会では、新型インフルエンザ対策に忙殺されました。当院では平成21年5月16日の新型インフルエンザ国内初発生前から準備を始めて、発熱外来の設置をし、外来の待合所を発熱患者さんと

それ以外の患者さんに分ける等の対応をしました。新型インフルエンザの予防接種については、供給量の不足と配給の不確実性；対象疾患の接種開始時期の変遷；接種回数2回から1回への変更、などに振り回され、実施計画を立てるのが困難でしたが、11月6日から開始した(1週間に3回；1日90名程度のワクチン接種)が軌道に乗りつつあります。関係スタッフ皆様のご苦労・ご努力に大変感謝しています。

入院基本料に関しては、重要な項目である「褥創(じょくそう)対策」について、平成21年9月に開催された「日本褥創学会」に参加し、『褥創の院内管理体制』の勉強をしてきて応用しています。

今年は病院運営面での大幅な変更があり、またまた大変な一年となりそうですが、皆様方の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

地域医療センター・センター長 西岡豊



謹んで新春のお喜びを申し上げます。皆様すこやかに新春をお迎えのことと存じます。

日頃は、高知医療センターとの医療連携にご理解とご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

高知医療センターが地域医療支援病院として承認されてから3年目を迎えました。昨年も地域医療センターは、地域医療連携強化に向けて様々な新しい取り組みを行ってまいりました。まず、人員配置に関しては、前方連携業務(予約受付等)の担当者を1名、MSW(メディカルソーシャルワーカー)を3名に増員し、地域の医療機関との連携がより迅速・円滑に行なわれるように配慮しました。また、地

域医療センターの看護師も外来コンシェルジュ活動を行い、来院された患者さんの利便性の向上に努めました。さらに一昨年同様、医療従事者の方々に向けての研修会・講演会・症例検討会(地域医療連携研修会、高知の医療を考える公開講座等)を積極的に開催し、各医療機関、郡市医師会の訪問等を精力的に行い、より顔の見える開かれた地域医療センターを目指してきました。

今年も県内医療機関のリーディング・ホスピタルとして、地域医療センターは地域医療機関および患者さんの安全・安心・信頼の確保に向けた地域医療連携を機能させる責務があると考え、精一杯の努力を重ねてまいりたいと考えております。

旧年中と同様、今年もご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

総合周産期母子医療センター・センター長 吉川清志



明けましておめでとうございます。高知医療センターは5回目のお正月を迎えました。

昨年1年間、総合周産期母子医療センターの運営にご協力いただきました方々に心より御礼申し上げます。お陰様で新生児や妊婦の県内での応需不能例はありませんでした。

高知県の新生児死亡率は、05年1.2(全国1.4)で全国値よりも良かったのですが、06年2.3(同1.3)、07年3.0(同1.3)、08年1.7(同1.2)と3年連続で全国値よりも悪く、06年と07年は2年連続全国最悪の値でした。(08年の全国順位は不明)各年の死亡数(超過死亡数)は、05年7人(-1.3人)、06年14人(+6.2人)、07年17人(+9.6人)、08年10人(+3.1人)で、全国平均以下となるためには死亡数は7人以下でなければなりません。

どうすれば新生児死亡率の改善を図ることができるのでしょうか。もちろん私たち医療者の研鑽は最も重要ですが、私は高知県のその他の指標の改善に相通じるものがあるのではないかと考えています。即ち、小中学生の運動能力テスト・全国学力テスト・MR(麻しん・風しん)ワクチン接種率など総ての指標の全国順位が下位なのです。一人当たり県民所得は確かに低いのですが、貧しくても心がしっかりしていれば多くのことは可能です。即効性は無いかもしれませんが総ての基本は教育だと思えます。学校教育から一貫した人間教育・性教育・妊婦指導など、地道な取り組みが必要と強く感じている昨今です。皆様はどのようにお考えでしょうか。幸い09年11月末までの高知医療センターの新生児死亡数は0ですので、09年の新生児死亡率は全国よりも良い値となるのではないかと期待しています。

2010年も私達は皆様と協力して、妊婦・新生児の医療に全力を尽くしたいと考えています。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

救命救急センター・センター長 森本雅徳



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は当院救命救急センターにご支援、ご鞭撻をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年は、4月にメキシコで局地的な発生が確認された新型インフルエンザがあつという間に世界中に広がりました。日本においても、その侵入を防止することはできず、秋から冬に大流行を起しています。地球温暖化のみならず、病気においても世界中が一蓮托生であることを実感させられた一年でした。

救命救急センターにおいて、昨年はうれしい出来事がありました。一つは、11月から救急医学会の指導医で

ある村田厚夫先生をお迎えすることができたこと、次は、新たに2名の救急専門医が誕生したことです。救命救急センターがこれまでの苦しい時期を乗り越え、さらにレベルアップを図れるものと期待しています。しかしながら、救急医療を取り巻く環境は相変わらず厳しいものがあります。救命救急センターは、高知医療センターの全診療科協力の下、一丸となって救急医療を実践してきました。これからも「医療の原点は救急医療にある」をモットーとして頑張っていきたいと思えます。

地域の皆様方におかれましては、日頃、救命救急センターの運営に多大なご支援をいただいているところですが、今年も尚一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようどうかよろしく願いいたします。

平成22年が皆様にとりまして明るい年となりますことを祈念申し上げます。

がんセンター・センター長 森田荘二郎



新年明けましておめでとうございます。昨年中は医療センターに多大なるご支援をいただきまして、心より感謝いたします。おかげさまをもちまして、ご紹介いただいた患者さんも年々増加の一步をたどっております。

昨年は地域がん診療連携拠点病院として備えるべき機能の中でも、特に緩和ケアに関する機能の充実を進めてまいりました。5月から緩和ケア専従看護師の配置が実現したこともあり、緩和ケア・緩和ケアチーム運用委員会の設置、緩和ケアチームの拡充、病棟リンクナースの強化、症例カンファレンスの定例化、緩和ケア外来の開設（当面は

入院していた患者さんを対象として）、県内緩和ケア施設との連携強化、がん診療に携わる医師を対象とした緩和ケア研修会の開催、そして患者サロンでの講演会などを行ってまいりました。セカンドオピニオンも全診療科で受けていただけるようになりました。また、がんセンターのホームページ、当院でのがん診療に関わる情報、公開講座の資料および学術業績を随時掲載・更新していくようにしました。

本年は当院でのがん診療実績をさらに充実させていくとともに、開院以来6年目を迎えることもあり、各種がんの診療実績、治療成績を公表できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

本年もご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

循環器病センター・センター長 岡部学



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

県民の皆様・地域の各医療機関の皆様方には、旧年中より深い御理解と多大な御支援を当循環器病センターにいただきました事から御礼申し上げます。

当センターは1年・365日・24時間、内科・外科が一体となって高度最先端循環器医療を実践し、循環器疾患の宿命である救急医療には特に重点的に取り組んでまいりました。県下全域で「いつでもどこでも安心な医療」を提供するため、救命センター・各部署との密な連携の基に、ヘリおよび救急車搬送の機動力を効率的に活かしながら、日々の救急医療に携わり、また、地域医療機関に向いての救急患者治療も積極的に行ってまいりました。

日常診療業務におきましては、虚血性心疾患から心臓弁膜症・不整脈、生活習慣病の治療・管理まで広範な範囲の医療を実践いたしました。年間のカテーテル診断・治療件数は1,300例を超え、全国トップレベルの症例

数と成績を収めました。また、「心臓・血管リハビリセンター」の稼働により、診断から治療・リハビリ・社会復帰までの全行程に対して、責任の持てる完成度の高い循環器治療を行い、心臓外科においては心臓を止めない低侵襲手術のノウハウを従来の「冠動脈バイパス手術」から「弁膜症・胸部大動脈瘤手術」まで適応拡大し、疾患の高齢化・重症化の問題を解決いたしました。また、ステントグラフト治療により、従来は治療困難であった多くの重症大動脈瘤患者も救命しております。低侵襲手術を基本理念に年間350例を越す心臓・血管手術をこなし良好な成績を収めました。

今年は、「超高速時間分解能を有するDual Source CT」の導入により、冠動脈造影検査も外来での非侵襲的冠動脈造影CT検査に変化・進歩いたします。

当センターは、日々大きく変化する医療ニーズに対し「変化は進歩」の基本姿勢で、責任ある積極的な循環器医療を実践してまいります。

今年も一層のご指導、ご鞭撻、ご支援をいただきますよう心からお願い申し上げます。

新任医師 のご紹介

高知医療センターに新しく赴任された 先生方をご紹介します!!

- ①所属科 ②経歴年数 ③専門分野 ④職歴
- ⑤所属学会、認定医、専門医、指導医など
- ⑥趣味 ⑦地域の先生方へ自己紹介



村田 厚夫 (むらた あつお)



- ①救命救急センター・副センター長
- ②33年目
- ③救急医学、外傷外科学、中毒学、消化器外科学
- ④大阪大学第2外科(講師)、杏林大学高度救命救急センター(助教教授)、福岡の民間救急病院を経て、平成21年11月1日より赴任
- ⑤日本救急医学会(指導医)、日

本外傷学会(専門医)、日本中毒学会、腹部救急医学会、臨床救急医学会など
⑥映画鑑賞、歴史、旅行、そしてテロ対策・災害対策(趣味と実益)

⑦この度、救命救急センターに赴任いたしました。生まれは九州の福岡で2歳から関西で育ち、アメリカ留学も経験し、外科学会指導医・消化器外科学会指導医として大阪大学にいましたが、15年前の阪神淡路大震災に被災しました。そのため、救急医療・災害医療の充実が日本には絶対必要と考え、杏林大学に移りました。救急医学会指導医となった後、しばらくの間は福岡の民間救急病院で働いておりましたが、地域医療だけでなくヘリ搬送やへき地医療も救命医療の柱であり、それができる高知にまいりました。坂本龍馬とは移動の向きが異なりますが、心の中には「大きな夢」を未だに抱いておりますので、これからご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

永井 立平 (ながい りゅうへい)



- ①産科 ②9年目
- ③産科一般、胎児超音波診断
- ④高知医科大学卒業後、三豊総合病院、嶺北中央病院、幡多けんみん病院、高知大学産婦人科を経て平成22年1月1日より赴任
- ⑤日本産婦人科学会専門医、周産期・新生児医学会胎児蘇生法イン

ストラクター、FMF NT測定資格認定、妊娠高血圧学会、婦人科内視鏡学会、臨床細胞学会、日本超音波医学会
⑥釣り、ドライブ
⑦高知県の産科医師は数限られておりますが、少しでも効率的で機能的な周産期システムの構築を目指して力を注いでいきたいと思っております。妊娠初期(11~14w)胎児スクリーニングや胎児超音波外来も積極的に行っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

有森 勸 (ありもり すずむ)



- ①整形外科 副医長 ②8年目
- ③外傷、整形外科全般
- ④岡山大学整形外科入局し、国立病院岡山医療センター、愛媛整形外科療護園、岡山労災病院、津山中央病院を経て、平成21年7月1日より赴任
- ⑤日本整形外科学会専門医、日本

整形外科学会、日本骨折治療学会、日本リウマチ学会、日本リハビリテーション学会、日本人工関節学会、中部整形外科学会、中国・四国整形外科学会
⑥釣り、映画鑑賞
⑦前任地でも骨折等の外傷を中心に診療してまいりました。高知医療センターでは多発外傷、多発骨折、骨盤骨折の治療にも携わりたいと考えておりますので、ご紹介の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

小川 達彦 (おがわ たつひこ)



- ①一般外科・乳腺内分泌外科
- ②3年目 ③一般外科
- ④平成21年10月1日より赴任
- ⑤ー ⑥スポーツ(サッカー)、読書、映画鑑賞
- ⑦2009年10月より一般外科に就職してお世話になっております。高知医療センターに見学に来

た際に、皆さまに非常に温かく歓迎していただいたため、就職を申し込みました。高知へは旅行で一度しか来たことがありませんが、坂本龍馬の本を読んで以前から惹かれていました。今は忙しくて病院を出ることは難しいですが、夏を楽しみに頑張りたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

平成21年6月以降付 退職医師(敬称略)

- 6月30日付 西山 武 (整形外科)
- 鈴木 友彰 (心臓血管外科)
- 7月31日付 楠瀬 真奈 (循環器科)
- 8月31日付 高橋 章仁 (小児科)
- 9月30日付 上坪 知世 (麻酔科)
- 伴場 圭一 (循環器科)

第28回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第47回日本癌治療学会 in 横浜

2009年10月22～24日

婦人科 医療局次長 竹内 悟



学会会場前にて：竹内悟医師

2009年10月22日(木)～24日(土)まで、パシフィコ横浜で日本癌治療学会がありました。木曜日は外来があるため参加できず、その日の最終便で羽田へ行きました。最終便は JAL でしたが、搭乗の際入り口に新聞が置いてありませんでした。経営が厳しい JAL が経費削減の努力をしているのであらうと思いましたが、帰りの JAL には新聞を置いていました。羽田に到着して、そこより京浜急行で横浜まで行き、みなとみらい線に乗り継ぎ馬車道駅で降りました。宿泊したホテルからは横浜のシンボルである大観覧車が目の前に見えました。

日本癌治療学会は、自分自身が参加する学会の中で最も規模が大きいものです。規模が大きいため、朝会場へ到着してまずすることはランチョンセミナーの整理券を確保することです。婦人科がんに関する学会としては日本婦人科腫瘍学会がありますので、癌治療学会では各科横断的な事柄を聴くように心がけています。金曜日は内

視鏡によるがん治療についてのシンポジウムを聴きました。消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科、婦人科より内視鏡治療の現状についての講演がありました。

土曜日は化学放射線療法についてのシンポジウムがありました。頭頸部、食道、肺、子宮頸部について講演がありました。子宮頸がんに関しては、琉球大学医学部放射線科の戸板孝文医師より放射線の全治療期間が遅延すると治療効果が落ちると説明がありました。特に全治療期間が8週を超えると有為に治療成績が落ちることがエビデンスで示されました。

土曜日のランチョンセミナーは、“婦人科がん臨床試験グループ世界の動向”を聴きました。韓国 Seoul National University の Soon-Beom Kang 先生と英国 University of Liverpool の John A. Green 先生の講演でした。特に John A. Green 先生は、当然のことかもしれませんがきれいな発音で内容も良く整理されており、英国の臨床試験の現状が良く理解できました。

午後1時半からは教育講演がありました。自分の発表と重なるため、発表の前に講演を抜け、発表が終わるとまた教育講演に戻って聴きました。教育講演は癌治療認定医を維持するために必要なものです。自分自身の発表の場には、高知医療センター・放射線療法科の秦康博先生、5A(ほがらかフロア)の田尻信子看護科長、小松すみ子看護副科長さんなどが見に来てくれました。夕方無事に学会を終え、土曜日の高知行き最終便で帰りました。



竹内悟医師の学会発表の様子





医療法人若槻会 若槻産婦人科クリニック

〒781-1301 高岡郡越知町越知甲 1725-1
電話：0889 (26) 1132 FAX：0889 (26) 1955

(診療科) 産科、婦人科、小児科、内科
(併設施設) グループホーム希望の里



医療法人若槻会若槻産婦人科クリニックは、昭和 38 年 4 月に高岡郡越知町に開院しました。産婦人科をメインとし、分娩も取り扱い、また小児科や内科系の診療も行い地域に密着した診療所です。平成 16 年には病棟を増改築し、認知症対応型共同生活介護（グループホーム希望の里）を併設しました。従来、一般病床数は 18 床でしたが、この改築により現在の病床数は 4 床（産科）となっています。今回は若槻俊也院長にお話を伺いました。
(高：高知医療センター、若：若槻産婦人科クリニック)

本当に心強い味方だと思います。ただ、夜間のヘリ搬送については越知町ではいろいろな問題があり難しいようですが、今後は夜間も搬送できるよう行政に働きかけていきたいと思っています。

高：高知医療センターとの連携についていかがですか？

若：分娩は母体と子供の 2 人の命を授かることとなり、分娩中や分娩後も予測がつかないことが起こる場合があります、よって連携の病院は必須です。現在、高知医療センターと連携させていただいていますが、緊急の妊婦さんや新生児も 24 時間体制で、電話 1 本でいつでも快く受け入れていただき本当に助かっています。県外では多忙や様々な理由により受入れを拒否されることが多いようですが、医療センターでは医師、スタッフの皆さまが何とか受入れを受諾するよう努力していただき、ほとんど断られたことがありません。これは素晴らしいことだと思います。また、どうしてもベッドが満床で受入れが困難な時も、先生方から電話で何度が明確な指示をいただき大変感謝しております。

高：今度の課題や貴院のめざされていること、またはモットーなどはございますか？

若：当医院のめざしていることと言えば、少し大袈裟になりますが「分娩の灯を消さない」、いわゆる、分娩を止めないことです。最近では絶滅危惧種とまで言われるようになった産科医ですが、気がつけば高岡郡内では分娩取り扱い施設は当医院のみとなりました。何度もやめようと思ったことがありますが、生まれてきた赤ちゃんの元気な泣き声を聞くとそんな考えはふっ飛んでしまいます。私の体力の続く限り頑張っていきたいと思っています。さて、私のモットーは「患者さんとの信頼関係を築く」です。医師として当たり前のことですが難しいことと思っています。私自身、若い時に患者さんが外来で「生理痛でつらい」と訴えたので何も余り考えず痛み止めの薬をだし、その患者さんは後で看護師に「私がどんな気持ちで先生に伝え、何をしたいと望み、どんな助けを求めているのかという投げかけさえもなかった」と言われたそうです。この時、多忙にまかせ大切なものを置き忘れていた私自身にショックを受けました。体を診て人を見ない医師になっていたように思います。やはり「心」と「心」で向き合えば、患者さんとの信頼関係を築けるはずもなく、症状だけでなく患者さんの不安な「心」と自分自身の「心」で向き合うという姿勢が大切で、日々の小さな心のやりとりを積み重ねる中で患者さんとの信頼関係は育っていくのではないかと思いますし、大上段から振り下ろされた正義感や使命感でなく、しっかりと地に足をつけた診療を心がけ、私自身「心の姿勢を常に顧みる作業」を忘れることなく努力していきたいと思っています。

高：ホットラインもあり、ヘリ搬送もできますのでお気軽にご利用いただければと思います。

若：ホットラインは非常に役立っています。緊急の時は担当の先生と直接お話ができ、対応も迅速で安心です。またヘリ搬送に関しては、越知町は高知市内より 30km ほど、医療センターからは 40km ほど離れており、一刻を争う場合には



写真：若槻俊也院長（真中）とスタッフの皆さん

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。

☆すこやかフロアでクリスマス会が行われました☆

NEWS
Vol.8

高知医療センター 4F のすこやかフロア、ホープさんの部屋で 12 月 15 日（火）にクリスマス会が行われました。高知医療センターのスタッフが演劇をしたり、クリスマスソングを手話付きで歌ったり、またクリスマスにちなんだクイズでは正解した子供たちに手作りのメダルのプレゼントがありました。最後にはサンタクロースがやってきて、子供たちへプレゼントを手渡し、サンタとの記念撮影も行いました。入院している子供たちもクリスマスのひとときを楽しんでいました。



高知医療センター イベント情報

日	曜	1月～	
16	木	セミナー「外来がん化学療法の実践に必要な基礎知識と看護師の役割」	
		内容	外来がん化学療法の実践に必要な基礎知識と看護師の役割
		講師	高知医療センター 看護局 副科長 清遠 朋巳 氏 高知医療センター 看護局 副科長 池田 久乃 氏
		場所	高知城ホール（高知市丸ノ内2丁目1-10）
		時間	10：00～16：30
主催&お問い合わせ：有限会社ブラン・ドゥ・シー 高知市一宮しなね 1-1-3-103 電話：088（803）1805			
22	土	高知県胸部疾患研究会定例会	
		内容	臍胸の診断と治療～胸腔鏡下手術の役割と考察～
		講師	高知医療センター 呼吸器外科 科長 岡本 卓 氏
		場所	高知保健協会
		時間	19：00～
主催：高知県胸部疾患研究会 共催：第一三共（株）			
お問い合わせ：高知医療センター 呼吸器科 浦田知之 電話：088（837）3000			
25	月	第44回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会	
		場所	高知医療センター2階 くろしおホール
		時間	17：30～19：00
お問い合わせ：高知医療センター 救命救急センター			
28 30	木 土	第43回日本臨床腎移植学会	
		テーマ	蘇る（よみがえる）
		会長	高知医療センター 病院長 堀見 忠司 氏
		場所	三翠園（高知市鷹匠町1-3-35）、高知県立文化ホール（高知市本町4-3-30）
		参加費：事前登録 医師 15,000円 コメディカル 9,000円（当日登録 医師 16,000円 コメディカル 10,000円）	
		運営事務局：株式会社 JTB 中国四国 高知支店 電話：088（823）2331（10：00～17：00）	
学会事務局：高知医療センター			
30	土	第12回（平成21年度第3回）高知医療センター地域がん診療連携拠点病院公開講座	
		内容	喉頭がんのABC
			最近の大腸がん治療
			高知医療センターにおける婦人科がんの診断と治療
		講師	高知医療センター 耳鼻咽喉科 医長 土井 彰 氏 高知医療センター 消化器外科 主任医長 濱田 円 氏 高知医療センター 婦人科 医療局次長（母性・小児診療部門）竹内 悟 氏
		場所	安芸商工会議所 2F大ホール（安芸市本町3-11-5）
時間	14：00～16：30		
主催：高知県・高知市病院企業団立高知医療センター			
お問い合わせ先：高知医療センター事務局業務推進第一課 電話：088（837）6760 ※入場無料、事前申込不要			
30	土	第10回地域医療連携研修会は都合により中止となりました。次回は3月に開催予定です。	

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年も地域の医療機関を訪問し、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。地域の医療機関の皆さま方からいろいろとご支援を賜りまして「顔の見える」医療連携に結びついていることを実感しております。また、昨年より地域医療連携室の人員を加配し、少しずつ業務内容を充実させ、紹介患者さんの各診療科へのご案内や地域医療機関の要望に沿った研修なども行ってきました。今後も地域における医療従事者の皆さまのご希望に沿いながら実践に結びつけた講習会も計画したいと思っておりますので、お気軽に声をおかけくださいませ。これからも地域に根ざした「顔の見える」医療連携に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。（地域医療連携室 主任看護部長 大西）



平成21年1月1日発行
にじ 1月号（第51号）
責任者：堀見 忠司
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：地域医療センター
地域医療連携本部
印刷：共和印刷株式会社

高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL：088（837）3000（代）